

2章. 気象及び被害の状況など

2-1. 気象状況

(1) 降雨の状況

宍粟市が位置する播磨北西部は、平成 21 年台風第 9 号により豪雨が集中し、時間最大雨量として千種で 71 ミリ、一宮町三方で 63 ミリという記録的な豪雨を観測しました。

また、24 時間雨量は千種町で 251 ミリ、波賀町引原で 216 ミリ、一宮町桑垣で 205 ミリ、一宮町神戸で 191 ミリ、山崎で 135 ミリが観測されるなど、特に市北部地域に大量の雨が長時間にわたり集中しました。

これらの観測雨量は当時の下三方小学校が土砂に押し潰された昭和 51 年の下三方地区土砂災害時の雨量 (217 ミリ：一宮観測所)、揖保川に架かる神河橋が流出した平成 2 年の豪雨災害時の雨量 (266 ミリ：一宮観測所) に相当するものでした。

《市内の主な観測所における雨量》

観測地点	桑垣	戸倉	引原	三方	神戸	山崎	千種
時間最大	50mm	37mm	44mm	63mm	61mm	13mm	71mm
24 時間	205mm	129mm	216mm	-	191mm	135mm	251mm

※三方観測点におけるデータは 9 日 9 時～16 時の記録が欠落している。

(2) 水位の状況

平成 21 年台風 9 号による洪水で、揖保川並びに千種川の水位は上昇し、揖保川三軒家水位観測点では最高水位が 4.57 メートルを記録、千種川千種水位観測点では最高水位が 2.63 メートルを記録しました。

この水位は、揖保川三軒家水位観測点においては危険水位を約 1.4 メートル超えるものであり、揖保川においては平成 16 年台風 16 号による洪水時の最高水位より約 0.5 メートル高い水位が記録されました。

また、長時間による豪雨は、危険水位も長時間におよび、揖保川三軒家水位観測点においては 9 日 23 時から 10 日 5 時までの 6 時間にわたって危険水位を超える水位が観測されました。

《市内の主な観測所における水位》

観測地点	上野	西深	三軒家	山崎第二	千種
水防団待機水位	2.00m	2.50m	2.00m	2.30m	1.10m
氾濫注意水位	2.80m	3.30m	3.00m	3.60m	1.60m
危険水位	-	-	3.20m	4.30m	2.80m
最大水位	3.34m	4.22m	4.57m	3.71m	2.63m
水防団待機水位時間	9/21:00 ~ 10/19:00	9/23:00 ~ 10/ 3:00	9/21:00 ~ 10/18:00	9/24:00 ~ 10/ 7:00	9/16:00 ~ 10/10:00
氾濫注意水位時間	9/22:00 ~ 10/ 1:00	9/23:00 ~ 10/ 2:00	9/23:00 ~ 10/ 6:00	10/ 1:00 ~ 10/ 2:00	9/21:00 ~ 10/3:00
危険水位時間	-	-	9/23:00 ~ 10/ 5:00	-	-

2-2. 被害状況

平成 21 年台風第 9 号による豪雨被害は人命に関わる被害は無かったものの、1,066 件におよぶ住家及び非住家の損壊・浸水被害をはじめ、多種多様な被害が発生し、国県管理施設等の被害を除いた市内における総被害推計額は、87. 億円に達すると試算されており、被害額としても市政施行以前も含めて歴史上に残る大災害となりました。

1. 洪水被害の状況

市が行った浸水家屋等の被害調査を基に、市内各所での浸水深を取りまとめた結果をみると、最大は一宮町下三方地区の 3 箇所で 2.25 メートルの浸水で、山崎町においては与位地区、一宮町では閨賀地区の浸水が広範囲、かつ深刻なものとなっています。

これらの地域は平坦な低地が多く、地域外への排水が困難であるという地理的状況はありますが、いずれも揖保川からの洪水の流入が主要因となっており、河川堤防の整備の遅れや河川断面の確保が不十分であったことが、大きな原因と考えられます。

II. 被害の概要

(1) 人的被害の状況

市内各所において土砂崩れ、浸水被害、道路・河川の損壊等があったものの、人命に関わる被害はありませんでした。

しかしながら、これは『奇跡』とも言える状況で、避難等の時間が少しでも遅ければ人的被害の状況は変わっていたのではないかと想定されます。

《宍粟市内の人的被害の状況》

町名	人的被害			
	死者	行方 不明者	負傷者	
			重傷	軽傷
山崎町	0人	0人	0人	2人
一宮町	0人	0人	0人	1人
波賀町	0人	0人	0人	1人
千種町	0人	0人	0人	0人
宍粟市計	0人	0人	0人	4人

(2) 住家被害の状況

住家及び非住家の被害は、市内全地域で発生しましたが、特に降雨の激しかった一宮町、千種町地域では全壊・大規模半壊・半壊などの建物自体に大きな損害を被る被害が多くなりました。

また、降雨量は一宮町・千種町地域と比べて少ないものの、揖保川からの氾濫等により、市南部の山崎町地域では床上・床下浸水被害の割合が高くなりました。

町名・区分	住家被害				
	全壊	大規模半壊	半壊	床上浸水	床下浸水
山崎町	1件	3件	21件	11件	63件
一宮町	13件	21件	68件	41件	189件
波賀町	1件	0件	3件	2件	29件
千種町	3件	2件	6件	9件	73件
宍粟市計	18件	26件	98件	63件	354件

町名・区分	非住家被害				
	全壊	大規模半壊	半壊	床上浸水	床下浸水
山崎町	1件	5件	5件	19件	98件
一宮町	27件	10件	61件	68件	153件
波賀町	1件	0件	3件	10件	10件
千種町	2件	0件	2件	3件	29件
宍粟市計	31件	15件	71件	100件	290件

(3) ライフラインの被害と復旧状況

水道・下水道のライフラインについては、洪水による道路流出等により配管・マンホール等が損壊し、断水等の被害が発生しました。また、電気・電話・テレビについても山腹崩壊や道路流出等により断線し、被災直後においては、市内全域で一時停電・不通となりましたが、被害の大きかった地域については、そのほぼ全世帯で停電や電話の不通などの被害が発生しました。

市内全域の復旧については、完全復旧までに概ね1カ月を要する被害となりましたが、特に、電話の不通については、被災状況の把握や避難所の設営等の支援活動に大きな支障となりました。

8月12日～（但し、水道・電気については、8月10日～）

区分	町名等	主な被害（ピーク）	現況	復旧の状況
水道 (断水)	山崎町	葛根2戸	なし	9月8日 全地区復旧
	一宮町	草木・千町・黒原・ 楽里・生栖・深河 谷・西深・福知の 全域443戸	なし	
	波賀町	谷20戸	なし	
	千種町	なし	なし	
電気 (停電)	市内	約2,700戸	なし	9月4日 全地区復旧
電話 (不通)	山崎町	なし	なし	8月12日 全地区復旧
	一宮町	千町20戸	なし	
	波賀町	なし	なし	
	千種町	なし	なし	
テレビ (不通)	山崎町	なし	なし	8月31日 全地区復旧
	一宮町	千町・福知	なし	
	波賀町	日見谷	なし	
	千種町	なし	なし	

(4) 道路の通行不能等の状況

市道は、最大で、25路線、5橋梁が通行止めの状況となりました。

通行規制の主な原因は、崩土・道路流出・橋梁流出などですが、集落間を結ぶ道路の通行止めにより、一時孤立した集落は相当数に上りました。

▼市道の主な通行止め箇所（平成21年11月16日現在）

嶋田与位線（山崎）、与位清野線（山崎）、横住線（一宮）、福野三方町線（和合橋：一宮）、高取河原線（樽垣内橋：一宮）、アラボリ1号線（一宮）、宮山線（高座橋：一宮）、谷下三方線（波賀）、宮坂線（波賀）、七野下河野線（千種）、森脇越札線（千種）、岩野辺荒尾線（千種）

国・県道についても、崩土・路肩崩壊・道路流出などにより多くの路線が通行止め、或いは片側通行の状況となり、災害支援活動や日常生活に大きな支障となりました。

特に、国道29号の山崎町与位～一宮町嶋田の通行止め・片側通行、主要地方道養父栗線の一宮町楽里地内の通行止め・片側通行においては、利用者も多く、被災地のみならず隣接する地域、更には経済流通活動にも大きな支障となりました。

▼国道・県道の通行止め箇所（平成21年11月16日現在）

県道一宮生野線（福知）※福知渓谷休養センターより奥が通行止めの状況

(5) 公共土木施設の被害状況

市管理河川の多くが護岸崩壊等の被害を受けました。

河川については、10月30日を以て国の災害復旧事業査定が終了しましたが、査定後の災害件数は、97件に上りました。

国・県の管理河川についても全市域にわたって多くの箇所が護岸崩壊等の大きな被害を受けました。

その中で、二次災害の危険のある箇所、主要道路に隣接する護岸等については、大型土のう積み等による応急復旧工事、河川内の堆積土砂の除去作業が進められ、増破防止や道路路肩の崩壊防止が図られました。

(6) 農林畜産業の被害状況

市内の各地区で田畑、山林、農林道が被災を受けたとともに、福知地区内にある牛舎が流出するなど畜産業においても甚大な被害を受けました。

農地・農業用施設、林業施設については、12月12日を以て国の災害復旧事業査定が終了しましたが、それぞれ査定後の件数は、農地が74件、農業用施設が64件、林業施設が80件となりました。

また、関連施設の被害として、林地荒廃被害が56箇所、農産物被害が約83ha、畜産物被害が肥育牛14頭、農畜産業施設にも流出・倒壊などの被害が及びました。

(7) 商工業の被害状況

この度の豪雨災害は、市の基幹・中核をなす商工業にも多大な被害を及ぼしました。

特に、店舗・工場等の被害については、一宮町内の被害が甚大で、多くの事業所が施設・設備の損壊を受けました。

また、宍粟市の雇用環境を支える手延素麺事業者の被害も大きく、機械設備の清掃・更新や作業場床の張り替えなど、本格的な製麺シーズン入りを前に、慌ただしい作業が続けられました。

市の主要産業である観光事業にも大きな被害があり、特に一宮町福知溪谷内の施設については被害が甚大で、長期休業や店舗閉鎖に追い込まれる事業者もありました。

店舗・工場等の被害状況

単位：件

区分	全壊	半壊	一部損壊	床上浸水	床下浸水	その他	計
店舗	1			19	43		63
工場	2		1	37	16		56
その他	1		2	17	44		64

※兵庫県まとめによる

業種別被害状況

区分	製造業	商業(卸・小売・飲食)	その他	計
事業所数	70	63	50	183
被害総額(千円)	93,490	26,420	44,650	164,560

※兵庫県まとめによる

▼手延素麺事業者の被害状況

床上浸水・・・17件、床下浸水・・・7件

※兵庫県と手延素麺組合調査による

▼観光関連施設の被害状況

福知溪谷休養センター(宍粟市)・・・河川の氾濫による直接被害となっており、当面、休業の見込み。

(8) その他

市内の教育施設、文化財施設、衛生施設、情報通信施設なども大きな被害を受けました。

▼学校の被害状況

①中学校

一宮北中学校・・・土砂流入（約1百万円）

千種中学校・・・法面崩壊、フェンス崩壊（約1億2千6百万円）

②高校

山崎高校・・・演習林及び作業道崩壊（佐用郡佐用町）

伊和高校・・・運動場土砂・汚泥流入

千種高校・・・公舎の隣接法面の崩壊・土砂流入

▼保育所

一宮北保育所（公立：一宮町内）・・・駐車場と園庭の冠水。フェンスの倒壊。門の流出。

かしわの保育所（公立：山崎町内）・・・雨漏り2箇所

一宮ひかり保育所（私立：一宮町内）・・・床下浸水

▼高齢者福祉施設

まどか園（社会福祉法人：一宮町内）・・・道路寸断による一時孤立。停電。

みどり苑（社会福祉法人：一宮町内）・・・浸水被害。

▼指定文化財の被害状況

①県指定

河呂農村歌舞伎舞台・・・柱の基礎が一部崩落（約1百万円）

②宍粟市指定

三方公園・・・法面崩壊（約1百万円）

波賀城跡・・・法面崩壊（約4百万円）

▼上水道・簡易水道施設の被害状況

上水道・・・山崎（約1千4百万円）

簡易水道・・・6簡水（約3億4千3百万円）

▼下水処理施設の被害状況

公共下水道（特定環境公共下水道含む）施設・・・2処理区（約6百万円）

コミュニティプラント施設・・・9処理区（約9千8百万円）

農業集落排水施設・・・4処理区（約3千6百万円）

合併処理浄化槽・・・3箇所（約7百万円）

▼情報・通信施設の被害状況

既存施設及び地域情報通信基盤施設・・・7箇所（約6百万円）

▼消防施設の被害状況

消防本部千種出張所・・・隣接法面の崩壊（約2百万）

山崎町清野地区



一宮町福知地区



波賀町谷地区



千種町西山地区



2-3. 被災者・被災地に対する支援

(1) ボランティア支援・物資支援

被災直後の8月10日に「宍粟市災害ボランティアセンター」が宍粟市社会福祉協議会に設置されて以降、全国から延べ1,712名におよぶボランティアが被災家屋土砂撤去や清掃活動など、多面的な被災地救援活動をいただきました。

なお、当ボランティアセンターは、8月26日に「宍粟市社会福祉協議会復興支援ボランティアセンター」となり、社会福祉協議会を中心とした活動展開による支援に切り替わりました。

また、ボランティアと同様に、全国から様々な救援・被災者支援物資が届けられ、それぞれの用品は被災者・避難所等に配付されました。

これらの暖かい支援は、物心両面において被災者・被災地を勇気づけ、被災直後からの日常生活の確保や復興に向けた大きな力となりました。

支援物資については、9月3日現在でタオル類4,772枚、マスク20,150枚、衣料類1,412着、食料4,240食、飲料15,628本、生活用品類15,860個、作業用品類2,669個に上ったほか、日本赤十字社救護資材として、毛布460枚、日用品314セットの支援も受けました。

(2) 義援金等の支援

全国から寄せられた義援金総額は平成22年3月末で、38,585,180円となり、これらの義援金は宍粟市災害義援金配分委員会の決定により、床上浸水以上の被災の程度等に応じて、平成21年9月～12月と、平成22年4月～5月の2次に分けて現金給付されました。なお、2次の給付以降においても義援金は寄せられており、それらの義援金についても配分委員会の決定により、今後における大規模自然災害発生時の被災者支援に活用することされました。

宍粟市台風第9号災害義援金の給付等状況

単位：円

区分	第1次配分		第2次配分		合計	
	件数	給付総額	件数	給付総額	件数	給付金額
全壊	18	5,400,000	18	2,340,000	18	7,740,000
大規模半壊	26	3,900,000	26	1,690,000	26	5,590,000
半壊	112	13,440,000	112	5,824,000	112	19,264,000
床上浸水	64	3,840,000	64	1,600,000	64	5,440,000
被災児童支援	181	543,000	0	0	181	543,000
計	401	27,123,000	220	11,454,000	401	38,577,000